

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

### 【実践者】

授業者氏名	藤田 生	学校名	石狩市立石狩中学校
教科（科目）・領域	道徳	対象学年（人数）	2年 A組（32名）
実践年月日	2019年 3月 14日（5、6校時）		

### 【実施概要】

1. 単元名(活動名)：支援のロードマップづくりを通して、平和の構築について考える					
2. 実施する教科・領域： 道徳 国際理解、国際貢献	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 内戦終了後のスリランカに対するロードマップづくりを通して、平和構築のためのプロセスを考え、平和を構築していく意識を持つ。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	日本とスリランカの「違い」と「同じ」を見つけ出し、他国についての理解を深めることができる			
	②思考力、判断力、表現力等	ロードマップを活用した活動を通して、平和構築のためのプロセスについて考えることができる			
	③学びに向かう力、人間性等	ピースウィンズジャパンというNGOの活動を知り、平和を構築していく意識を持つことができる			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 ピースウィンズジャパン（PWJ）への視察を通して、内戦後に人々がどのように生活を立て直し、平和構築への道を歩んでいるかということを知ることができた。PWJの支援活動を紹介しながら、平和に向かう支援のあり方について共に考えていきたい。				
	【単元の意義】 日本も戦争によって大きなダメージを受け、そこから立ち上がり発展を遂げたという歴史がある。日本の戦後復興にも興味を持ちながら、平和はどのように構築されていくのかということを考えるきっかけにしたい。				
	【児童/生徒観】 本学級は、グループワークなど仲間と協力して取り組むことには前向きな生徒が多い。グループでの話し合いにおいては、自分の意見を持ち、相手の意見を尊重し、お互いに高め合う活動になることを目指している。				
	【指導観】 平和の構築が、自分には関係のないこと、とならないように、身近なところにおける平和についても目を向けさせたい。例えば、学級において、みんなが安心して仲良く生活できる環境をつくるためにはどうしたら良いかということも考えさせたい。				

7. 単元計画 (全3時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	スリランカについて知り、国際理解を深める ・日本とスリランカの「違い」と「同じ」を見つけ出し、他国についての理解を深めることができる	○スリランカの基本情報について紹介する ・場所や国旗、面積、人口、民族、言語などについて説明する  ○「どっちがスリランカ？」というクイズに挑戦する ・2枚の写真を提示し、どっちがスリランカで撮った写真かを考えさせる ・初級編（7問）に挑戦した後、上級編（6問）に挑戦する  ○クイズの答え合わせ ・パワーポイントを使ってクイズの答え合わせをしながら、スリランカについて紹介する ・ジャヤワルダナ大統領と日本との関わりについても紹介する  ○感想の記入 ・クイズやジャヤワルダナ大統領の話を通して感じたことを記入する	・写真 ・動画 ・パワーポイント ・ワークシート
2,3 本時	内戦後のスリランカに対するロードマップづくりを通して、平和の構築について考える ・ロードマップを活用した活動を通して、平和構築のためのプロセスについて考えることができる ・ピースウィンズジャパンというNGOの活動を知り、平和を構築していく意識を持つことができる	○スリランカの内戦の歴史を知る ・内戦のきっかけや被害状況、戦後の課題について説明する  ○戦後のスリランカに対する支援のためのロードマップをつくる ・指示書と支援カードを配布し、ロードマップのつくり方について説明する ・班ごとに役割分担（司会、記録、発表）をさせてロードマップづくりに取り組ませる  ○班ごとに作成したロードマップを発表する ・発表の際には、支援の理由についても説明させる ・ロードマップは黒板に掲示する  ○ピースウィンズジャパンの活動について紹介する ・スタッフの思いを動画で紹介する ・再定住地域で生活する人々の様子も紹介する  ○感想を記入 ・支援や平和構築について考えたことなど、授業の感想を記入させる	・写真 ・動画 ・パワーポイント ・指示書 ・支援カード ・ロードマップ ・作文用紙

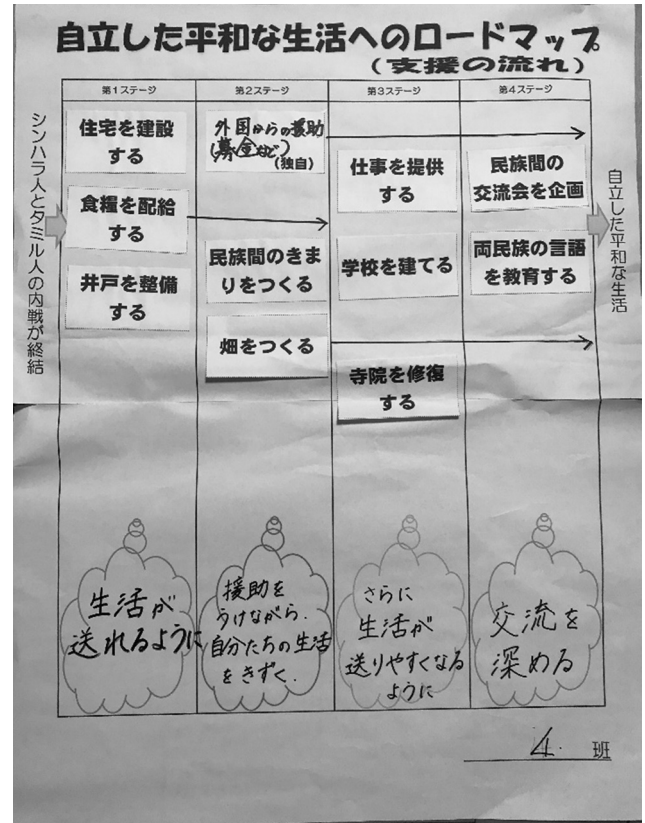
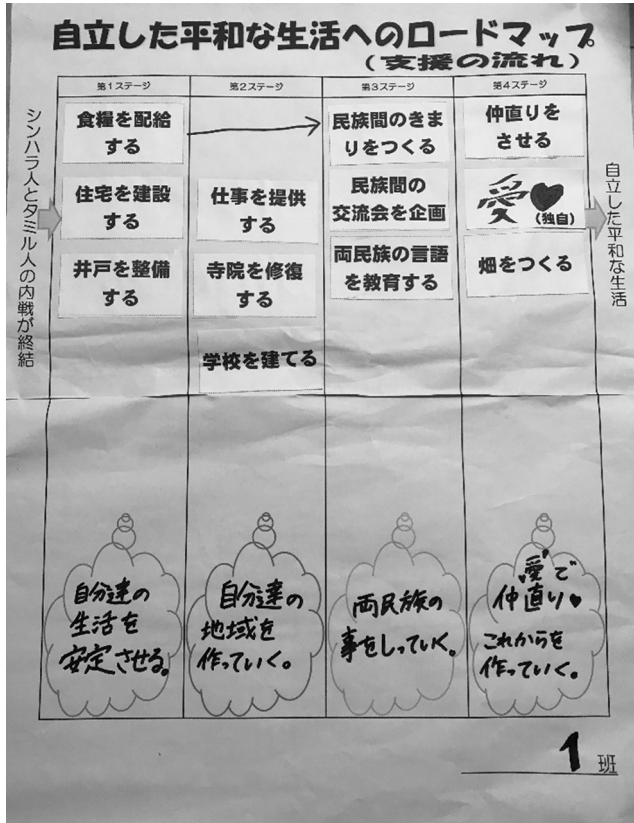
8. 本時の展開			
本時のねらい：内戦後のスリランカに対するロードマップづくりを通して、平和の構築について考える			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入  (15分)	<p>○スリランカの基本情報を復習</p> <p>○スリランカの内戦の歴史を知る</p>	<p>・スリランカは他民族国家で、シンハラ人とタミル人とムスリムがいることを確認</p> <p>・内戦のきっかけや被害、戦後の課題などについて説明する</p>	<p>パワーポイント</p>
<p>課題：自立した平和な生活を送るためのロードマップをつくろう</p>			
展開  (35分)	<p>○支援のためのロードマップをつくるための指示書と支援カードを配布する</p> <p>○班ごとにロードマップをつくる</p> <p><b>支援の目指すところ：</b> 自立した平和な生活</p> <p><b>方法：</b> 1 4枚の支援カードを4つのステージに分けて並べる。2枚の白紙カードには、独自の支援内容を記入する。</p> <p><b>ルール：</b> ①ステージごとに置くことのできるカードは3枚まで。 ②カードには、その支援が必要な理由も記入する。 ③継続が必要だと思う支援については、矢印(→)で示す。</p>	<p>・指示書を使って、戦後のスリランカの状況を説明する</p> <p>・ロードマップのつくり方やルールについて説明する</p> <p>・話し合いをするための役割分担を行わせる(司会、記録、発表)</p> <p>・机間巡視をしながら、必要に応じてアドバイスをを行う。</p> <p>・支援を行う理由づけをしっかりとさせる</p> <p>・時間を提示しながら、発表の準備も促す</p>	<p>指示書 支援カード パワーポイント</p> <p>ロードマップ</p>
(25分)  (15分)	<p>○班ごとに作成したロードマップを発表する(1班3分以内)</p> <p>○ピースウィンズジャパンの活動や、日本紛争解決センターの瀬谷ルミ子さんによる4つのステップを紹介する</p> <p>○私たちの平和も構築されてきたものであることを伝える</p>	<p>・ロードマップは黒板に掲示する</p> <p>・現地スタッフの思いを動画で紹介する</p> <p>・再定住地域で生活する人々の様子も紹介する</p>	<p>パワーポイント</p>
まとめ  (10分)	<p>○感想を記入する</p>	<p>・平和構築や平和維持について考えたことを記入させる</p>	<p>作文用紙</p>

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>単元の評価基準② 思考力、判断力、表現力等（観察・発言・振り返りシート）</p> <p>ロードマップを活用した活動を通して、平和構築のためのプロセスについて考えることができる</p> <p>単元の評価基準③ 学びに向かう力、人間性等（観察・発言・振り返りシート）</p> <p>ピースウィンズジャパンというNGOの活動を知り、平和を構築していく意識を持つことができる</p>	
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>スリランカ海外研修において、国内難民支援を行うピースウィンズ・ジャパン（PWJ）というNGOの視察を行った。内戦終了後にPWJが現地で行った支援内容をヒントにして、本時で取り扱っているロードマップの支援カードを作成した。また、現地スタッフのインタビュー動画は、生徒に親近感を持たせるものとなった。</p>	
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>学校内においては、公開授業を通して教師海外研修の成果を伝えることができた。また、石教研課題部会国際理解教育部会においては、レポート発表を行い授業実践の紹介をしたいと考えている。</p>	

【自己評価】

12. 苦労した点	内戦終了後の支援を題材にしているが、生徒の日常生活とかけ離れている事象に対して、動機づけを行うことが難しかった。また、内戦についての前情報がある程度説明しないと生徒は支援についてイメージできないので、説明する内容や時間配分などを精査するのに苦労した。
13. 改善点	授業を展開する中で、「平和構築」ということについて、自分事として捉えさせることができなかつたので改善が必要だと感じた。日本の平和に焦点を当てたり、クラスの平和に焦点を当てることで、一般化をはかることができるのではないかと思う。または、平和構築ではなく平和維持の方に視点を移すと、平和な日本に生きる生徒にとっては考えやすいかもしれない。
14. 成果が出た点	ロードマップという学習方法によって、平和構築のためのプロセスを段階的に考えることができた。中学生には難しい題材であったが、支援カードを準備したことで、誰でも参加しやすく、ゲーム感覚で気軽に取り組める活動になったと思う。協働的な学習を促すことができ、有効な学習方法であると思う。
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	参考資料にて紹介
16. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画を通して生徒の興味・関心をつかむことができたので、言葉による説明や体験談よりも、写真や動画が伝える力は大きいと感じました。</li> <li>・教科の中で授業をするときに、教科の目標と自分が伝えたいことがマッチしないことが起こり得るので、すり合わせが難しいと感じました。国際理解教育が総合の中に位置づけられていると、授業がしやすいと思います。</li> </ul>

参考資料：



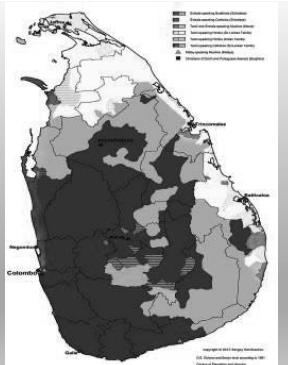
# スリランカ 内戦の歴史

## 内戦によって破壊されたヒन्दウー寺院

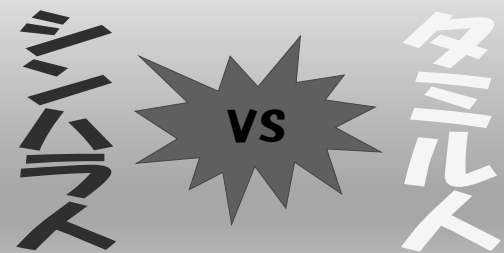


## 複数の民族が生活するスリランカ

- 紫：シンハラ人
- 黄：タミル人
- 緑：ムスリム



## 1983年 民族間で戦争が始まる



## きっかけは・・・

### 政府によるシンハラ人優遇政策

- ・シンハラ語を唯一の公用語とする政策
- ・少数派のタミル人にとって不利となる政治体制の確立
- ・シンハラ人が信仰する仏教への優遇

## タミル人は・・・

### 猛反発！！！！

- ・タミル・イーラム国の分離独立を要求
- ・武装組織を結成（LTTE）

↓  
シンハラ人兵士13人を殺傷

その後・・・

### 26年にもおよぶ内戦となる

- ・空港を襲撃 ・地雷
- ・民間人の殺害 ・大統領の殺害
- ・子どもの徴兵 ・女性に対する暴力
- ・死者は7万人以上

2009年・・・

### 内戦の終結を宣言！！

- <両者の思い>
- ・戦争をして良かったことは何もない
  - ・憎しみ合いからは何も生まれない
  - ・もう辛い思いはしたくない

戦争によって・・・

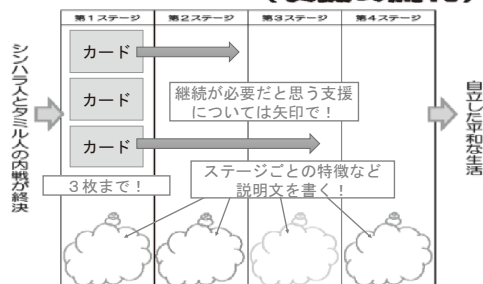
### 28万人もの国内難民

- ・戦争によって家を失う
- ・キャンプ生活を送る
- ・仕事がない ・お金もない
- ・食料が乏しい ・学校に通えない

自立した平和な生活を送るために、

あなたならどのように支援をしますか？

### 自立した平和な生活へのロードマップ (支援の流れ)



### Peace Winds JAPAN (ピースウィンズジャパン)



## 彼らの行った支援・・・

### ① キャンプ内での食料配布



## 彼らの行った支援・・・

### ② 生活用水のための井戸を修復



## 彼らの行った支援・・・

### ③ 再定住支援として仮設住宅の建設



## 彼らの行った支援・・・

### ④ 自立を目指した生計支援パッケージの配布



#### 農業パッケージ

- ・水ポンプ
- ・水まき用パイプ
- ・カボチャの種子 200g
- ・落花生 40g

## 彼らの行った支援・・・

### ④ 自立を目指した生計支援パッケージの配布



#### 養鶏パッケージ

- ・鶏小屋の資材
- ・生後30日の鶏 40羽

## 彼らの行った支援・・・

### ⑤ 教育を受けるための学校を建設





## 彼らの行った支援・・・

⑥農業や酪農の技術を伝達



## 彼らの行った支援・・・ときには、

！洪水被害による緊急支援



現地スタッフ  
佐藤さんの  
お話



ここで動  
かなかったら  
誰が動くん  
だ！！

私たちはこ  
れまで支援  
を受けてこ  
なかつた…

## 再定住地域で生活する人々・・・



## 再定住地域で生活する人々・・・



## 再定住地域で生活する人々・・・



再定住地域で生活する人々・・・



再定住地域で生活する人々・・・



再定住地域で生活する人々・・・



再定住地域で生活する人々・・・



再定住地域で生活する人々・・・



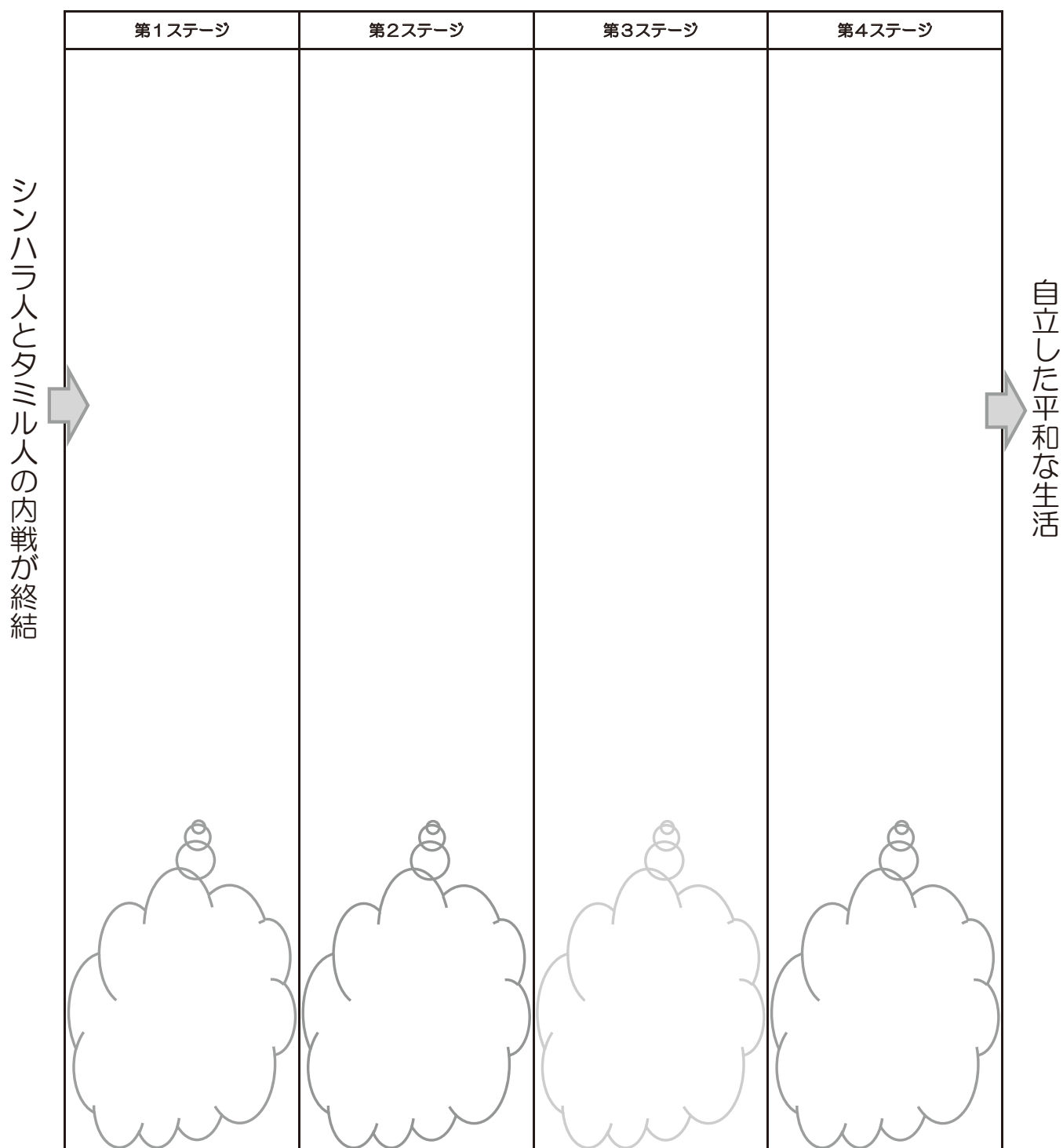
再定住地域で生活する人々・・・



再定住地域で生活する人々・・・



# 自立した平和な生活へのロードマップ (支援の流れ)



\_\_\_\_\_ 班

# グループへの指示書

## <出来事の整理>

- ・ 1983年、シンハラ人とタミル人による戦争が始まる
- ・ 民間人を含めて7万人以上が戦死
- ・ 2009年、内戦の終結を宣言
- ・ 28万人もの人々が国内難民となる

## 指示内容

「憎しみ合いからは何も生まれない」「もう辛い思いはしたくない」という両者の思いから、シンハラ人とタミル人による戦争は終わった。戦争によって、人々は家族を失い、家を失い、仕事を失い、キャンプ生活を余儀なくされる。そのような国内難民と呼ばれる人々は、28万人にも及ぶ。

彼らは、大切なものを失った悲しみの中にあり、毎日の生活が困難な状況にあり、対立していた相手とどのように関係を築いていくか（仲直り）という課題がある。そのような状況の中で、「自立した平和な生活」を目指して、どのように支援をしていったらよいだろうか。支援の方法について考えなさい。

## <方法>

14枚の支援カードを使ってロードマップ（支援の流れ）を作成する。

ロードマップにはステージ1からステージ4までの4段階があり、支援の優先順位をつけてカードを並べていく。2枚の白紙カードには、必要に応じて独自の支援内容を記入する。

## <ルール>

- ①ステージごとに置くことのできるカードは3枚まで。
- ②継続が必要だと思う支援については、矢印（→）で示す。
- ③下にステージごとの説明文を書く。

# 支援カード

<b>武器を回収 する</b>	<b>畑をつくる</b>
<b>民族間のきまりをつくる</b>	<b>学校を建てる</b>
<b>巡回警察を 配備する</b>	<b>仕事を提供 する</b>
<b>井戸を整備 する</b>	<b>農業や酪農の 技術を伝える</b>
<b>住宅を建設 する</b>	<b>民族間の 交流会を企画</b>

<p><b>寺院を修復 する</b></p>	<p><b>アイスの 作り方を伝授</b></p>
<p><b>両民族の言語 を教育する</b></p>	<p><b>食糧を配給 する</b></p>
<p><b>(独自)</b></p>	<p><b>(独自)</b></p>